

天遊

大阪教育大学広報誌 TENYU
Summer.2014 No.30



Contents

- 02 教職大学院について
越桐理事 インタビュー
- 03 男女共同参画推進コラム
手をつないで Vol.7

- 04 新任役員紹介
中西理事に聞く！
- 05 STUDENTS NOW!
- 06 ラボ訪問

- 08 卒業生キャッチ
- 11 附属学校園ウォッチ
本読みのススメ 第8話
- 12 TOPICS



人にまっすぐ。
大阪教育大学



大阪の教育力を結集し
若手リーダーの養成を。

大阪教育大学連合 教職大学院を開設

教職大学院設置準備室長
こしぎり くにお
越桐 國雄 理事

教員養成に特化した 専門職大学院

— 教職大学院とは、そもそものような大学院
なのでしょう。

越桐 教職大学院は、法科大学院などと同じ枠組みの専門職大学院のひとつです。平成18年の中央教育審議会の答申で、社会の大きな変動に対応した資質能力の高い教員を養成するため、教員を専門職として位置づけ、現職教員と学部卒生を対象とした教職大学院制度の創設が示されました。導入された平成20年から現在までに、全国で25大学に設置されています。

— 既設の修士課程との違いは？

越桐 既設の修士課程が、教育学の最新成果を探求し、教科に関する高度な知識や手法を修得した教員の育成を目的としているのに対し、教職大学院では、教育現場が抱えるさまざまな課題において、教育委員会や地域と密接に連携し、解決へと牽引する若手リーダーの養成を目的としています。教職大学院の教育課程にも、修士課程にはない「学校における実習」が設けられており、より高い教職実践力の養成が求められています。

“オール大阪”での 新しい取り組み

— 開設の経緯を教えてください。

越桐 これまで大阪は、教職大学院の空白地帯でした。ところが、大阪の教育現場では、中堅層の教員が薄くなっており、若手リーダーの養

成が急務です。そこで本学は、教員養成に関する広域の拠点大学として、教員の資質能力の向上や教育委員会とのさらなる協働を進めるにあたって、教職大学院の設置が不可欠と判断し、平成27年4月の開設を目指すこととなりました。

— 本学教職大学院の特徴は？

越桐 関西大学と近畿大学との連合教職大学院であることです。教員養成に重要な役割を果たしてきた大阪の有力私立大学である両大学と国私立の垣根を越えて連携することで、それぞれの教育研究資産や大学の特徴を活かしてさらなる発展が見込めると考えました。幸いなことに、両大学からも“ぜひやりましょう”との返事をもらいました。また、大学だけでなく、大阪府、大阪市、堺市の教育委員会とも連携し、大阪の教育力を結集した“オール大阪”の体制で、これまでの枠組みを超えた新しいものを創造できると期待しています。



関西大学・近畿大学との共同記者会見の様子

資質に合わせた 3つのコース

— 本学連合教職大学院（以下、本研究科）の
教育プログラムは？

越桐 それぞれの資質に合わせた3つのコースに分かれています。現職教員を対象としたコースでは、将来の管理職養成を目指す「学校マネジメントコース（定員5人）」と、授業研究やカリキュラムの開発を通して教育現場を牽引する若手教員のための「教育実践コーディネートコース（定員10人）」があります。学部卒生を対象としたコースは「教育実践力開発コース（定員15人）」で、将来の中核的教員の養成を目指します。また、上記2コースの現職教員学生に対して「指導主事錬成プログラム（定員5人：内数）」を実施します。これは、指導主事やその候補者を対象としており、昼間は教育現場で働き夜間に本学で学び、研修・指導に関する方法論や課題解決力を修得することで将来の中核的指導者を目指す、本研究科独自の取り組みです。

— 主な開講場所は天王寺キャンパスですね。

越桐 天王寺キャンパスは交通の便が良く、約1時間で大阪の教育委員会や学校の多くがカバーできます。働きながら学べる環境が整っています。



天王寺キャンパス（西館）あべのハルカスの姿が見える

本学の特色を活かした 教育課程

— 本研究科の授業内容を教えてください。

越桐 本研究科の教育課程は、すべての学生が共通に履修する「共通科目」と「学校実習科目」、各コースの特徴に合わせた「コース科目」、教育テーマや自らの課題についての実践的な応用力や課題解決力を養成する「架橋科目」と「課題研究科目」の5つから構成されています。授業は、研究者教員と、現場教員の経験がある実務家教員がペアとなり、複数の視点から進められ、理論と実践の融合を図ります。授業スタイルも座学だけでなく、ディスカッションやワークショップを中心に、学生が主体的に学べる新しい教育手法を展開します。

— 本学ならではの特色は？

越桐 「共通科目」に、本学の特色を生かした科目が二つあります。一つは、「特別ニーズ教育の理論と実践」です。障がいの有無によらず、地域の学校で子どもたちが一緒に学ぶ“インクルーシブ化”をテーマとしており、特別支援教育講座などの教員により授業が展開されます。もう一つは「学校安全と危機管理」です。附属池田小学校の事件を教訓に、学校危機メンタルサポートセンターの協力のもと、本研究科においてもその重要性を伝えていきます。

— 実習先にも大阪の教育界で実績を残す本
学の強みが発揮されていますね。

越桐 選択科目にさまざまな実習先を取り揃えています。「行政研修実習」では、大阪府、大

阪市、堺市の各教育委員会や教育センターの初任者研修に参加・参画し、行政研修の在り方を学び、企画力を培います。「他学校・他機関実習」では、幼稚園や特別支援学校、夜間学級など小中高以外の学校や、児童自立支援施設などの機関で、多様な学びや指導の在り方を経験できます。さらに、「他地域・海外学校実習」では、国内外の教育機関における優れた教育を通じた交流を目的としています。大阪はさまざまな課題のある子どもたちが多く、これらの実習を通して視野を広げ、学校現場の課題への対応力を身につけてもらいたいと思います。

理想の教職大学院の 創造へ

— 開設後の展望についてお聞かせください。

越桐 軌道に乗れば定員をさらに増やすことも視野に入れています。また、大阪では現在多くの私立大学が教育学部を新たに設置して、教員養成への参入を進めています。今後はさらに幅広い大学と連携して“オール大阪”体制の輪を広げていきたいですね。

— 最後に、未来の入学生に向けてメッセージ
をお願いします。

越桐 大学と教育委員会が連携し、地域の教育を担う若手リーダーを養成することが教職大学院の理想です。それに向かって、困難を乗り越え、道を切り開く意欲のある学生と教員が一丸となり、新しい教職大学院を一緒に創りましょう。



大阪教育大学連合教職大学院への問い合わせ先
教職大学院設置準備事務局
TEL:072-978-3220 FAX:072-978-3225

男女共同参画
推進コラム

手をつないで Vol.7

親密な関係の中にある暴力について

配偶者や恋人など、親密な関係にある者からふるわれる暴力の問題は、「ドメスティック・バイオレンス（DV）」という言葉で知られるようになりました。なかでも、配偶者や元配偶者からの暴力の防止と被害者支援に関しては、2001年に法律が施行されて以降、法整備がなされてきています。しかし、被害者の経済的自立に向けた支援や心のケアの問題など、まだまだ取り組むべき課題は山積しています。

DVIは、児童虐待とも関連の深い問題です。暴力に晒されることは子どもの心を深く傷つけ、健全な心の発達を歪めます。私の専門とする心理臨床の場でも、深刻な状態を訴えて来談するケースの背景に、子ども時代にDVに晒され、厳しい環境を生き抜いてきた大変さを知ることはいくつもありま

せん。年月を経てなお、癒えない苦しみを抱えるほどの深刻な影響を子どもに与えることから、DVは絶対にあってはならないと痛感します。

親密な関係の中にある暴力というのは、周囲には見えにくいものです。また、周囲に見えたとしても、加害者がそれを暴力であることを認めようとしない場合や、被害者の側も「相手を失いたくない」という感情から「No!」と言えなくなっている場合もあります。

誰でも親密な関係の中で自分が満たされたいという感情を持つことはあるでしょう。しかし、対等な関係を相手との間に築こうとすれば、自分の欲求充足だけではなく、関係に生じる欲求不満に耐える力や相手に飲み込まれずに自分自身でいられる力が必要となります。女性の経済的自立を促進する男女共同参画社会の早期実現とともに、これから恋愛を経験し、やがて自分の家族を持つ若い人たちが、自分を大切にする力、そして人を愛する力をしっかりと自分の中に育てていってくれること願ってやみません。

男女共同参画推進会議

企画専門部会委員 上田裕美（学校教育講座・教職教育研究センター）

新任役員紹介

中西 理事 に 聞 く ！

Nakanishi Masato

なかにし まさと
中西 正人 理事
広報・附属学校担当 2014年4月就任



「もう一度教育の仕事がしたいと思い、引き受けました」と当時の栗林副学長から理事の誘いを受けたときのことを振り返ります。「昔からずっと教師に憧れていましたから」

中西正人理事は、昭和26年に三重県の藤原村（現・いなべ市）で生まれ、多感な時期を高度経済成長とともに過ごしました。高校は四日市高校に進学。このとき、教師に憧れるきっかけとなる教師と出会いました。名前は武藤先生。生徒からは“武藤湯”とあだ名されていました。「心安らぐ、温かくて素朴な温泉のようだからというのがその由来です。影響を受けて教師になった友人も多くいます」

京都大学では、生活状況の厳しい地域の子どもと遊んだり勉強を教えたりする「セツルメント活動」に専心しました。子どもたちと接して、教師への夢が膨らみましたが、教職の単位をとれず断念。住民の暮らしに役立つ仕事がしたいと思うようになり、大学卒業後は大阪府庁に入庁しました。

大阪府で行政マンとして39年間勤めました。「時代を象徴する7人のユニークな知事のもとで働き、幸せな公務員生活でした」。係長時代は私学助成、課長時代には文化生涯学習など、教育・文化事業にも関わりました。

平成16年、教育次長として大阪府教育委員会に赴任し、念願の教育に携わる仕事につきました。「嬉しかった。若いころの教師になりたい夢が形を変えて実現したのです」

教育次長として3年、さらに教育長として4年勤めた間に、教師のすばらしさを実感したエピソードが二つあります。一つは、寝屋川教師殺傷事件です。「学校現場で起こった痛ましい事件でした。このとき現場で府の指導主事が陣頭指揮をとり、その勇気と奮闘ぶりに心打たれました」と感慨深げに語ります。もう一つは、府立高校の生徒が国内第一号の感染者となった新型インフルエンザ事件です。「何日も泊まり込み、行政と教育との連携プレーで対応しました。わたし自身、非常時の判断や意思決定の勉強になりました」

本学に来て感じたことを聞くと「はつらつとした学生を見ていると、本学の卒業生で今年亡くなった友人の若いころの姿が蘇ります。校長をしていた彼は情熱を持った人で、大学時代はラグビー部のキャプテンでした。亡くなったその年に彼の母校へ赴任したことに不思議な縁を感じます」としみじみ。

本学に期待することとして「教育長時代に教育行政をめぐる厳しい

現状を肌で感じました。打開するには、まず、大学間の連携により切磋琢磨して、お互いの強みを伸ばしていくこと。そして、地域に根差し、地域と共に発展する大学づくりです。それには学校現場や教育行政と大学が学び合い、高め合うことが肝要ですが、来年開設予定の教職大学院が、その足がかりとなしてほしい」

理事としての抱負を伺うと、広報については「柏原キャンパスは都心から離れた立地のため、マスコミとは物理的・情動的な距離があります。メディアに働きかけるには一層の工夫が必要です」とメディア発信の重要性を語ります。また、附属学校については「地域に根差し、ともに発展する大学をめざす上で、附属学校はその礎となります。先日、附属11校園のPTA研修会に参加し、力を合わせて附属の発展に努めたいという思いを強くしました」と熱意を込めます。

そんな中西理事の趣味はマラソン。選暦で初めて大阪マラソンを走って以降、数々の大会に出場しています。ユニフォームの背中には「気持ちは韋駄天」の文字。「もうちょっと速く走りたいけど、脚が気持ちに追いつかない」と笑います。

学生には「逆境の時こそ人間の真価が問われる。苦しさに負けず、逞しさを持ち、チャレンジしつづけてほしい」とエールを送っています。

【略歴】

2009年4月～2013年3月 大阪府教育長
2013年7月～2014年3月 大阪府住宅供給公社理事長



STUDENTS Now!

あきらめなければ
夢は叶う。



田中 脩史さん
Tanaka Naofumi

教養学科スポーツ専攻
3年生

2013年11月17日、大阪経済大学との2部Aブロック優勝をかけた最終節。引き分け以上で大阪教育大学の1部昇格が決まる大事な一戦です。前節は逆転負け。この試合も前半10分で2点を先制され、重い雰囲気がかかります。しかし、すぐさま2点を取り返すと、後半ロスタイムで決勝点を挙げ、鮮やかな逆転勝利で優勝を飾りました。田中脩史さんも怪我をおして出場。「これまで優勝した経験がなく、心に残る一戦です」

大阪教育大学サッカー部は、関西学生サッカー1部リーグで、唯一の国立大学として奮闘しています。部員数は60人。強豪私立大学では一学年の部員数です。1部リーグの感想を聞くと、「想像以上に2部との差を感じる」との答え。しかし「選手を集める環境が整っている私立大学に比べ、恵まれた環境ではありません。でもピッチに立つのは11人です。個人の能力で劣る部分があったとしても、チームとして補っていける」と力強く答えます。

田中さんは1部昇格の原動力として貢献し、関西学生サッカーアウォーズの大会優秀選手賞にも選ばれました。ポジションはDF。チームでの役割を聞くと「攻守両面においてチームの中心でありたいし、その自覚もあります。それに、もう上級生なので、下級生にはできるだけ声かけをして精神的にも

支柱になりたい」と語ります。

昨年度の関西学生サッカー新人戦では準優勝を果たし、関西地区Jリーグ4チームと戦う関西ステップアップリーグの選抜メンバーに抜擢されました。貴重な経験に「技術的には通用する部分もあると自信になりました。でもプロはサッカーに懸ける想いが違う。技術と精神の両面で格段に差がありました」とプロの実力を肌で感じました。

サッカーの魅力を知ると「11人の瞬時の判断でプレーが変わるため、強いチームが勝つとは限らないところ」と目を輝かせます。サッカーを始めたきっかけは、2002年の日韓ワールドカップ。小学校三年生のときでした。強豪校の広島皆実高校に進学しましたが、故障で思うようなプレーができませんでした。「悔しかった。中学時代からの同級生が試合に出ているのを、自分は遠目で見ていただけでした。卒業時にはサッカーを辞めようか迷いました。でもあきらめきれず、もう一度本気でやりたいと思い直しました」。本学を選んだ理由は「関西の大学の中で、さらに強くなる潜在能力を感じました。サッカーを辞める決断をしたときに、教師としての道が残されていることも理由のひとつです」。勉強の末、一般入試で本学に入学しました。サッカー部は田中さんの他にも、一般入試で入学した部員が在籍しており「早くから試

合に出るスポーツ推薦入試組を見て、一般入試組も“俺たちだって”と奮奮しています」と切磋琢磨する部内の様子を語ります。授業では教員養成課程の保健体育専攻学生と授業を共にすることが多く「教員への意識や熱意が強く、授業一つをとっても、物事の裏側まで見ていて、観点がより深いと感じます」と刺激を受けます。

息抜きは映画観賞。「どんなジャンルでも楽しめますが、唯一ホラーは苦手。息抜きできないじゃないですか」と可愛らしい一面を見せます。

将来の目標を聞くと「サッカーでプロをめざしたい」ときっぱり。「高校では遠かった目標が今はすいぶん近づいてきましたし、これからの努力次第で道は開けると信じています。どんなときでも支えてくれた両親のためにも、あきらめなければ夢は必ず叶うこと証明したい」。意志の強い瞳は未来をしっかりと見据えています。





File.30 Kawakami Masahiro

特任准教授
川上 雅弘
科学教育センター

学ぶ力の養成に “科学コミュニケーション”を

「教科書には必ず解法が載っています。一方現実社会では、解法のない問題から答えを出すことが要求されます。学生には未知のものに対して、様々な角度からアプローチする力を身につけてほしい。実験教室はその訓練の場にもなります」川上雅弘科学教育センター特任准教授は、高校生向け実験教室「iCeMS/CiRAクラスルーム：幹細胞研究やってみよう! まずは観察から*1」(以下『実験教室』)の趣旨をこう説明します。

川上准教授は、平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)に輝きました。受賞理由は「幹細胞研究体験を通した幹細胞知識と科学の考え方の普及啓発」です。京都大学物質—細胞統合システム拠点(iCeMS)教授の中辻憲夫氏ら4名と共同受賞しました。『実験教室』はその一環で、ES細胞やiPS細胞の「科学的知識」と「科学それ自体の知識」を高校生が身につけることを目的とした活動です。細胞が分化する過程をボードゲームで学んだり、iPS細胞や分化した細胞を観察し感じたことを言葉で表現するなど、科学をわかりやすく身近に感じる工夫をしながら、先端科学が取り組む、答えの知られていない課題に挑戦し、考える力を養います。『実験教室』は高校生が対象ですが、ほかにも広く一般向けの活動をしてきました。科学の成果や現状を課題も含めて分かりやすく専門外の人に伝え、それぞれの立場を尊重しながら議論を交わす。それが“科学コミュニケーション”です。

川上准教授は、大学院卒業後の進路を考えたときにこの分野に関心を持ちました。「大学院では、家畜のクローン技術を研究していました。当時、この研究は世界から注目されていたが、ヒトへの応用が懸念され生命倫理の問題が叫ばれていました。生命科学の研究には生命倫理が関わる。社会の理解が必要と感じました」

「そんなとき、京都大学に生命倫理や科学コミュニケーションの研究室があることを知りました。卒業後、そこで研究員になり、『実験教室』の土台となる教材作りや研究者と一般の人を繋ぐ活動に関わりました」

その後、同大学iPS細胞研究所(CiRA)国際広報室に移り、研究所の広報業務を担当しました。「所長の山中先生はiPS細胞が関わる生命倫理など社会的課題を強く認識されていて、iPS細胞研究のためにも社会との対話や科学教育の重要性を感じておられ、わたしはその活動を手伝いました」

本学には、2011年に科学教育センター特任准教授として就任しました。本センターが理数系教員養成拠点構築事業*2を実施する中で、科学コミュニケーションに明るい人材を求めており、任田康夫名誉教授(当時は本センター長)の推薦で迎えられました。

理科教員志望の学生に伝えたいことは? 「科学の面白さやすばらしさと同時に、負の側面にも目を向けられるようになってほしい。そして起こっている問題に、科学的視点を持って、自分で考える習慣を身につけてほしい。最近ではネット検索で答えを見つけようとする人がいます。他人の意見を参考にしても良いですが、自分の答えを導き出すことが重要だと思います」

*1: iCeMS/CiRAクラスルーム：幹細胞研究やってみよう! まずは観察から
(<http://www.icems.kyoto-u.ac.jp/j/rsch/scg/2014/03/26-cr5-rpt.html>)

*2: 理数系教員養成拠点構築事業
(<http://cse.osaka-kyoiku.ac.jp/project/science.html>)



実験教材のボードゲーム



授賞式での記念撮影(左から、加納圭氏、中辻憲夫氏、水町衣里氏、川上特任准教授)

簡単に見えることは 簡単ではない

『「This is a pen.」のような簡易な文でも、その構造の成り立ちは学会で議論されています。ほとんどの言語構造理論は、まだ解明されていないのです。ジェイソン・ギンズバーグ准教授は、言語学の研究課題をこう答えました。

ギンズバーグ准教授はアメリカ出身。専門は統語論と言語学理論です。統語論とは、文がどのような構造で成り立っているかを解明する学問です。小さい子どもが言語を難なく習得できるのはなぜか、そのメカニズムは明らかになっていません。ある言語学者によると、“すべての人間の頭にはあらゆる言語に適応可能な『普遍文法』があり、それが各々の母国語に適応される”そうです。「実際に、英語と日本語の文法はかなり違うように見えますが、実はそれほど差異はなく、どちらも同じ普遍文法で築かれているのです」。この理論を解析するために、アリゾナ大学と共同でコンピュータモデルを開発し、文の構造の樹形図を描く人工知能プログラムを研究しています。

また、言語構造のデータベース構築と、その解析にも取り組んでいます。日本の学生に絵を見せ、絵についての質問を英語で回答させて音声で録音し、ピッチトラックデータとして集積します。これにより、音声の特徴が目と耳で認識できます。「音声データから英語の間違いを解析することで、英語が母国語でない英語学習者がどのような間違いを頻繁にするのか、なぜ間違えたのかといった傾向をつかめます。『普遍文法』の規則性について理解できる上、英語学習に還元することができるのです」と研究の成果を語ります。

授業では、英語の理解、会話、聞き取りおよび読解能力を伸ばすことを目的とした『外国語コミュニケーション』を担当しています。本学の『授業管理システム』に独自の教育プログラムを導入し、新しい授業モデルを構築しています。「このプログラムには教材が収録されており、問題に回答すると自動的に採点され、自身の成績も確認できます。スマートフォンや自宅のパソコンからもアクセスでき、いつでもどこでも授業に参加できます」とプログラムの出来栄に自信をのぞかせます。

学生には「簡単に見えることは実は簡単ではないことをわかってほしいのです。教育でも誰もが理解できる完璧な教え方などというものは存在しません。だからこそ、教え方や内容を工夫してほしい」とアドバイスを送ります。小学校で外国語活動が必修化されたことについては「子どもたちに合った授業内容を工夫するのはもちろん、教師自身がしっかりと英語を使えることも大切です。成績は良いのにうまく話せない学生は少なくありません。それは話す機会が少なかったからで、会話能力の向上には留学や海外旅行を利用して使う機会を増やすことが重要です。英語教師でなくとも外国語を習得して損はありませんから」と見解を述べます。

流ちょうな日本語を操るギンズバーグ准教授。アメリカでの学生時代、日本の大学との交換留学で初めて日本を訪れました。違う国の違った世界を経験してみたくなり、映画『ゴジラ』やジャパニーズアニメを観たことから日本に関心を持ちました。妻も日本人です。本学に赴任した理由は「研究環境が整った都会の大学に関心があったのもありますが、関西が大好きなのも理由の一つです。関西は文化遺産が多くあり、その上に最新の施設もある。古き良きものと新しきものが混在しています。食文化も発達していますしね」と魅力を語ります。

今後の研究目標は、言語理論を解析するためのコンピュータモデル開発を進めることです。「深い理論的な研究領域なので、応用はかなり難しい。しかしこの研究が進めば、適切な教材の開発による語学教育の発展や、脳科学における言語障がいへの治療法の確立なども可能になるのではないだろうか」

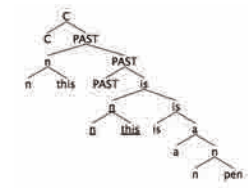


File.31 Jason Ginsburg

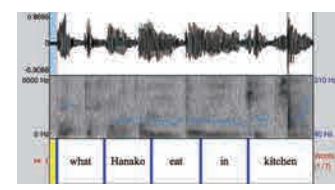
准教授
ジェイソン・ギンズバーグ
教養学科欧米言語文化講座



「外国語コミュニケーション」の授業風景



『This is a pen.』の樹形図



ピッチトラック

le)

深井 恵介さん

Fukai Keisuke

中学校教員養成課程数学専攻
2010年3月卒業

大阪府立松原高等学校数学科教諭



中村 由香里さん

Nakamura Yukari

小学校教員養成課程 保健体育専攻
2003年3月卒業

競輪選手

掴み取る力の養成をめざして



「人を育てるという軸は揺らぎません。でも、人をはかるものさしは入れ替えながら錆つくことがないようにしたい」。教師としての信念をこう語ります。

深井恵介教諭は松原高校に新任教員として入り、今年で5年目です。生活指導部では2年生280人の学年リーダーを任されており、厳しくも優しい姿勢が生徒に人気です。2年前に制服が変わったことに伴い、校則も一部厳しくなりましたが、「学校が一段上のステージに移るために協力してほしい」と根気強く説得しました。生活指導部長やほかの学年リーダーとチームプレーで取り組んだことで、より一層生徒と教員の信頼関係が深まり、学校生活への意欲も高まっています。

バスケットボール部の副顧問も務めており、こちらは生活指導よりもさらに踏み込んで、生徒の意識改革をしています。「ときに生徒は“ここまで頑張ればいいのか”とラインをつくりがちですが、そこで成長が止まってしまう。試合に勝つために、今ま

で自分がどれだけ努力して、さらなる高みを目指すにはどうすればいいか、考えるよう促しています」と常に生徒の心に響く部分を探索し、一歩でも前進するための指導をしています。

授業では数学を担当しています。授業中、積極的に発言する生徒は40人中5人程で、残りの発言しない生徒をどう拾っていくかが勝負だと語ります。「勉強していると“わからない”に必ず出会います。わからないから嫌い、で終わるのではなく、それを乗り越えるために、自分から手を伸ばして掴み取る力をつけてもらいたい。それは数学でいい点数を取るよりも大事なことです」。放課後や試験前に勉強会を開き、学びの輪を広げています。また、授業の成功には事前の準備にかかっているため、生徒がわからないと思うところをシミュレーションしているといいます。この授業計画には、大学時代の恩師との思い出が大きく影響しています。

父親が教師であることから、幼い頃より漠然と、自分も教師になるとの夢を抱いていました。部活でバスケットボールをしていたこともあり、教員養成の実績が高く、バスケットボールも盛んな大阪教育大学に入学しました。1、2回生のころは部活が中心で、授業は単位を取得できればいいという考えでしたが、3回生になり、ゼミに配属されて意識が変わりました。ゼミでは、岡安類准教授のもとで関数解析学を学びました。岡安

准教授は当時の学生の間では、厳しく、妥協しないことで有名で、その学年の受講者は深井教諭ただ一人でした。ゼミの発表は、教科書にある定理を証明し、解説すること。二時間の発表のために、頭の中に描いているものをすべて書き出してシミュレーションし、準備に何十時間も費やしました。クラブ活動や予備校講師のアルバイトをしながら、図書館とゼミ室を往復する日々でしたが、「岡安先生のおかげで教師としての自分があります。数学観も変わり、学問としての奥深さも知ることができました」と振り返ります。岡安准教授とは卒業した現在も、食事に行くなど親交が続いています。

後輩には、自身の経験を振り返ってこうアドバイスを送ります。「大学時代は最も強制力のない猶予期間です。だからこそ、大学で何を掴みたいかよく考えて、迷ったら困難なほうを選択してください。その選択は今しかできないことで、きっと自分の糧になります」



バスケットボール部での指導

自転車に決意を乗せて

「教師は後ろにも目が付いているといわれます。気配で子どもが何をしているかわかるのです。今も、背後の選手がどう仕掛けてくるか感じとれます」小学校教員時代の経験が、競輪選手となった今に活かしています。

かつて、1949年から1964年まで存在した『女子競輪』は、2012年に『ガールズケイリン』と名称を新たに復活しました。2014年5月時点で69人が在籍し、中村選手はトップクラスで活躍しています。打鐘が鳴り響く中での時速60kmのスパート勝負は圧巻で、「女性でもこれだけ体を張った戦いをするところをぜひ生で見たい」と胸を張ります。

中村選手は2013年度、ガールズケイリンにおける最高峰の舞台であるガールズGPで優勝し、競輪三賞(日刊スポーツ新聞社制定)のガールズMVPと賞金女王にも輝きました。モットーは「日々成長」。「ガールズ

ケイリンもわたしも今年が三年目で、真価が問われます。多くのお客様が面白いと思えるレースをして、ガールズケイリンを全国に広めたい」。出身は大阪ですが、師匠の田谷勇選手を慕って上京し、京王閣競輪場を拠点としています。年間90走以上出場し、休日練習の日々です。

小さいころから運動が大好きでした。「大きくなったらスポーツ選手になるのが夢でした。でもそれは一握りの世界で、夢は夢で終わってしまいました」。その後、教員という新たな目標を見つけ、大阪教育大学に入学。指導教員の赤松先生曰く「非常に熱心な学びの姿勢が、誰からも高く評価される学生」で、陸上競技部に所属し、日焼けしながら一生懸命練習に励みました。

卒業後は大阪市内の小学校で教鞭をとりました。忙しくも充実した毎日でしたが「子どもたちが日々成長しているのだから、わたし

も人間として成長しなくては」と思い立ち、ロードバイクを始めました。レースにも参加し、自転車競技への想いが高まりました。

転機は2009年。公営競技の競輪を統括する公益財団法人JKAが、女子競輪復活を発表しました。「一瞬の閃きでした。小さいころの夢を叶えたい、その一心だったのです」

「両親はもちろん反対しました。でも人生は一度しかない。挑戦するなら今しかない」。誰よりも強い覚悟を決めて7年間の教員生活に別れを告げ、勝負の世界へ飛び込みました。

競輪学校に女子一期生として入学。優等賞を取って卒業しました。初出走で一着になり、その後も着々と実績を重ねてきました。それでも中村選手は「今でも不安ですよ。でもたくさんの人の支えがあるから、目いっぱい走り続けられます」と謙虚に語ります。

中村選手は“自在選手”と呼ばれています。決まり手が一本だけでなく、さまざまな戦法を繰り出せるためです。視野を広く持ち、対戦選手の特徴をつかむコツは教員時代に培いました。「小学校では40人の児童を受け持ちましたが、競輪で戦うのはたったの6人です」と笑います。

今後の目標について「12月のガールズGPは岸和田競輪で開催されます。わたし自身生まれも育ちも大阪で、大学でも教員でもお世話になった土地。ぜひ凱旋優勝したいです」と宣言。「競輪を一生の仕事にしたい。60歳まで現役で頑張ります!」



リーチェンハンさん

Lee Chen Han

教養学科情報科学専攻
2011年3月卒

株式会社GSP ネットワークエンジニア



日本で学んだ技術を海外へ

「これからは情報通信の時代がくると思いました。就職活動をしていた当時はスマートフォンが普及し始めた頃で、水道・電気・ガスに次ぐ生活インフラとして、通信が必ず加わると確信しました」。情報通信業界で働くことに決めた理由をこう語ります。

株式会社GSPはモバイル・通信・ネットワークシステムの開発から構築までを総括的に担い、通信インフラの基盤を支える事業を展開しています。リーさんは入社4年目のネットワークエンジニアです。デスクでのパソコン作業を想像しますが、「ぼくの主な

仕事は無線伝送工事、いわゆる無線基地局での現場作業です。ラジオなどの伝送装置の設定・設置を現地の作業員に指示する現場監督の役割です」。仕事のやりがいを聞くと「近畿一円、季節を問わず電波が届かない現場を飛び回ります。雪山で作業したこともあるんですよ。工事を手掛けた地域を再訪したときに電波感度が上がっていると、仕事の成果を実感できます」と嬉しそうに語ります。

リーさんはマレーシア最大の貿易港があるクランという都市で少年時代を過ごしました。テコンドーでマレーシア少年チャンピオンになり、大学で開催されたかしわら国際交流フェスティバルでも腕前を披露しています。日本に興味を持ったきっかけは、中学3年生の時。『Summer Snow』という日本のドラマを観て、女優の広末涼子さんにひとめぼれました。「ぼくも日本語を話したいと思ったのですが、勉強する環境がなくて、それなら本場で学ぼうと思い立ちました」と日本留学を決意。高校を卒業後、小学生の塾講師をして、留学資金を貯めました。大学は近畿の国立に絞り、専攻を何にしようか考えた際、「情報科学であれば将来も安泰だと思いました。母も技術者になってほしかったようで、親孝行して安心させたい気持ちもありました」

在学中は留学生のリーダー的存在でした。言語の異なる学生同士の交流では「ぼく

は英語、中国語、マレー語、日本語、広東語、台湾語の6カ国語を話せます。だから、ぼくが皆のネットワークになればいいんだと思いました。ぼくをはさんで学生同士のコミュニケーションの輪が広がることが嬉しかったです」と自身の強みを生かしました。また、「誰かが困っていたら、すぐ助けたいという性分なんです」と照れながら笑います。一番の思い出は、クリスマスリースづくり。「ドイツ人の留学生がホームシックになったとき、元氣になってもらえるようにクリスマスツリーを買って、留学生みんなでリースを作りました。彼女もすっかり元氣になって、周りにも溶け込めるようになりました」

情報科学専攻では、ネットワーク理論の基礎を学び、それが現在の仕事でも非常時の対処に活かされているといいます。また、アルバイトでは仕事における会話術やチャンスをつかむ姿勢を培いました。「貿易会社に派遣されたときのことで。当初は通訳だったのですが、最終的には海外のお客さんとの直接商談を任されました。今の仕事でも、技術者目線だけでなく商売人としての目線からも物事を考えることができます」

将来の目標は「海外進出です。将来は海外部門の第一人者として、インフラ通信事業を現地の作業員とともに発展させることをめざしています。情報通信技術が躍進する可能性を秘めた国で、日本で学んだ技術を展開していきたいです」



かしわら国際交流フェスティバルにて



「学校安全の日」附属池田小学校行事 「祈りと誓いの集い」及び大学の事業を実施

大阪教育大学附属池田小学校事件から13年目を迎えた6月8日(日)、「学校安全の日」の行事として、附属池田小学校では午前10時12分から「祈りと誓いの集い」があり、児童、保護者、教職員など約1600人が出席しました。

事件から13年目を迎えるなかで、本学がこれからも事件を過去のものとして、教訓を広く社会に伝え、深刻化する学校安全の課題に先導的な役割を果たし続けていくために、教職員と学生が一体となって、全学規模で附属池田小学校事件を振り返り、学校安全への決意を新たにしました。

佐々木靖校長は「集い」の中で、「事件から13年が経ち、本校の在籍児童はあの日には生まれてもいません。また、現在の保護者の大半は人の親ではなく、現在の教員の大半は、教員ではありませんでした。しかし、この学校に自分の子供が入学した、この学校に勤務することになった瞬間から、それぞれに何らかの使命が与えられたのだと思います」と述べ、「わたしたちは、夢を語ったり、夢の実現に向けて努力したりすることが叶わなかった8人のことを忘れることなく、学校が安全で安心できる場所であるよう、手を携えて歩んでいきます」と事件で亡くなられた8人の児童に誓いました。

また、全校児童を代表して6年生児童3人が「安全で安心な学校生活を送っていることが、たくさんの人から与えられているものだ」と自覚し、二度とこのような悲しい事件が起こらないようにするためにも、先輩方から受け継いできた命の尊さを下級生に伝えていきます」と引き継ぐ思いを語りました。



本読みのススメ 第8話

「飲酒」

本学では今年も1200名を超える新入生を受け入れました。学生諸君は、それぞれに目標をもって、勉学にそして課外活動等に励んでくれています。

この時期、大学として悩ましいものの一つに「飲酒事故」があります。他大学の事例ではありますが、新入生歓迎コンパ等における無理な飲酒によって痛ましい結果を招いた事故報道をご覧になった方も多いと思います。本学では、ガイダンス時のみならず課外活動団体等にもそれぞれ口を酸っぱくして言っているお陰か、幸いにも重篤な事案は生じていませんが、今後とも気を引き締めて指導に当たっていきたいと思います。

今回は、お酒にちなんだ作品を紹介しましょう。

小説に関しては、大多数の作品に必ずと言っていいほど飲酒シーンがあって選択に困るのですが、印象に残る作品から4点選んでみました。

まずは、川上弘美氏「センセイの鞆」。30代の女性と高校の恩師との静かな恋愛を、行きつけの居酒屋を舞台に軽妙に描いています。次に、複雑な人間関係を美しい自然と四季の移ろい、そしてワイン農場の風景(本学近く堅下の地にあり、関西でも歴史のあるワイナリーの雰囲気を感じさせます)の中に見事に映し込んだ帯木蓬生氏の「空夜」。地域医療の激務を描きつつ、受け持ちのアル中患者の巧妙な酒の飲み方に悩まされる様をユーモラスに描いた夏川草介氏の「神様のカルテ」。極めつきは、アフリカの呪術師との壮絶な戦いの中から家族の絆を深め、自らのアル中をも克服する中島らも氏の「ガダラの豚」。

さて、ここでこの「ガダラの豚」からクイズです。「ソウを冷蔵庫に入れる3つの条件」とは? 答えは同書の中に。

(事務局長:若井祐次)

〈キリトリ〉

天遊vol.30アンケート

●本号でよかった記事を下から選んでください。(3つまで。その他は具体的にお書きください。)

【 】 【 】 【 】
(その他)

- | | |
|------------|----------------|
| ①教職大学院について | ②手をつないで |
| ③新任役員紹介 | ④STUDENTS NOW! |
| ⑤ラボ訪問 | ⑥卒業生キャッチ |
| ⑦附属学校園ウォッチ | ⑧本読みのススメ |
| ⑨TOPICS | |

●取り上げてほしい記事がありましたらお書きください。

()

●本誌をどこで手にされましたか。

()

●本誌をお読みになってのご意見・感想などをお聞かせください。

●次号以降、毎号「天遊」の送付を希望される方は記載をお願いします。(一度、送付希望ハガキをいただきました方は、再度お申し込みは不要です。)

どちらかに☑をしてください	☐ 次号以降、毎号「天遊」を送付希望します。 ☐ 今後「天遊」の送付を停止します。
ご住所 〒	
お名前	
お電話番号	

※お預かりした個人情報は広報誌「天遊」の送付以外には使用いたしません。

キリトリ

1 レゴ®ブロック等を活用した教育研究協力に関する覚書を締結

科学教育センターは、レゴブロック等を活用した教育教材に関して、学習指導方法の研究、教育効果の評価分析、今後の改善に向けた支援を行うため、レゴジャパン株式会社レゴエデュケーション、大阪市阿倍野区、大阪市阿倍野区公立学校新教材活用研究会と同センターの4者による覚書を締結しました。

レゴ社の教育教材『マインドストーム』は、パソコンで簡単なソフトを操作して動きをプログラミングできるロボットを製作するキットで、世界各国の教育現場で採用され、教育効果が上がると注目されています。今回、阿倍野区の苗代小学校がこのキットを導入した授業を実施することになり、大阪市阿倍野区公立学校新教材活用研究会代表でもある萩原憲二苗代小学校長が以前に本学附属平野小学校に勤務していた縁から、本学が効果の検証等に協力することとなりました。

中田博保科学教育センター長は「科学教育の原点は科学の楽しさを生徒たちに伝えることです。不思議なことやわからないことが理解できた時の喜びは、非常に大きなものがあります。今回のプロジェクトで、科学の楽しさを体験する生徒が増え、理科離れに歯止めがかかるとともに、教育現場の活性化につながることを切望します」とコメントしました。



2 本学学生が第62回関西学生剣道選手権大会で優勝

第62回関西学生剣道選手権大会で、スポーツ専攻4回生の小倉健志さんが初優勝を飾りました。同大会での優勝は本学初であり、国立大学の学生としても昭和49年(京都大学)以来の快挙です。

小倉さんは、ベスト32以降の試合をすべて延長戦で勝ち抜き、頂点に立ちました。決勝戦も気持ちを切らさず、相手に負けたくないとの一心で竹刀を振りぬき、見事一本勝ちをおさめました。

栄冠を手にして小倉さんは「顧問の太田先生をはじめ、周りのサポートや応援によって優勝することができ、嬉しく思います」と喜びを語りました。



顧問の太田順康教授は「技術面、精神面両方で、これまでより一段も二段も自分を高めていくことが

大事です。成長する機会を与えてもらいましたね」と激励の言葉を贈りました。

優勝の報告を受けた栗林澄夫学長は「素質あってのものだと思いますが、よくがんばりました。今後もより一層精進してください」と健闘を称えました。

〈キトリ〉

郵便はがき

5 8 2 8 7 0 5

(受取人)

大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

大阪教育大学管理部

総務企画課 行

料金受取人払郵便

柏原局
承認

125

差出有効期間
平成27年
1月31日まで

切手不要



〈キトリ〉

公式facebookページを開設しています

速報ニュースや公式ウェブサイトに掲載している情報を中心に、本学を身近に感じてもらえる記事、写真や動画などを配信しています。是非、「いいね」をクリックしてください。

<https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv>

本誌にご意見をお寄せください。

今後の紙面づくりに皆様のご意見を積極的に取り入れていきたいと考えています。ご感想やご意見、大阪教育大学についてお知りになりたいことなどを、はがきまたはwebアンケートでお聞かせください。

天遊vol.30
webアンケート



※該当する番号を○で囲んでください

あなたのご所属を教えてください

- | | | |
|-----------|----------|----------|
| ①本学学生 | ②本学卒業生 | ③本学保護者 |
| ④本学教職員 | ⑤附属学校生 | ⑥附属学校保護者 |
| ⑦附属学校卒業生 | ⑧附属学校教職員 | ⑨名誉教授 |
| ⑩教育委員会関係者 | ⑪他大学教職員 | ⑫他大学学生 |
| ⑬その他() | | |

「天遊」とは

「天遊」は、荘子の言葉から引用されたもので、人間の心の中に自然に備わっている余裕をあらわしています。キャンパス統合移転の記念に旧師範学校以来の同窓会3団体から寄贈された記念碑に銘文として刻まれています。記念碑の揮毫は、水嶋昌(山耀)本学名誉教授によるものです。



本誌はユニバーサルデザインフォントを使用し、再生紙に印刷しています。
この印刷物は、19,500部を741,000円で、すなわち1部38円で作成しました。